

自然観察 NOW

NO. 72

野幌森林公園自然情報

発行：2023年8月10日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>



オウバユリの話

花が咲くまで10年前後



7月上旬から中旬にかけて、野幌森林公園にはオオウバユリの花が咲きます。

発芽した1年目は、細長い葉が1枚。周囲に沢山の草が生えますから、根にチョッピリの養分を貯められるだけです。この様に少しずつ養分を蓄えながら1枚葉の時を数年過ごします。葉の形も細長い形から幅広の長楕円形に変化していきます。

葉の枚数は年を経るごとに増えていきます。枚数が5～7枚になると翌年、開花します。



右の写真は、来年あたり花を咲かせそうな株とその周囲です。発芽して3年目ほどと思われる長楕円形の1枚時代のオオウバユリが見られます。春先、地面をじっくり見ると楽しい発見があります。単子葉類は一枚葉。双子葉類は双葉。ゆっくりとおおらかに名前前は分からなくてもいい。生命の息吹の様子を感じ取りましょう。

夏の草はらでひときわ目をひくオオウバユリ

◆花茎が高いと受粉に有利です

夏草茂る原っぱの中に埋もれては種子を育てることが出来ません。原っぱを抜きこんでる高さに花茎を伸ばし、花を咲かせ、昆虫を呼び寄せ、種子を育てます。

◆右の写真は、今年の7月29日に撮影しました。横向きに咲いていた花ですが、果実(※注1)は、上を向きます。早くも、風の力を借りて種子散布の準備を始めています。

◆オオウバユリの一つの果実には、600個ほどの種子を実らせませす。果実10個で6千個、20個だと1万2千個もの、大量の種子を实らせませす。

※注1：オオウバユリの場合は「さく果」、熟すると果皮が裂開して種子を散布するもの



風の力を借りて種子を運ぶ

右の写真は、9月上旬の撮影。オオウバユリは他の草たちから抜きんでて高いです。風の力を借りる姿です。



種子は翼を持っています。極めて軽いです。息を吹きかけると舞い上がります。風で運ばれるように進化

して来たんですね。自然の巧みさを感じます。



左の写真は、11月上旬に撮影しました。果実は既に開いています。櫛の歯状のもので種子がこぼれないようになっています。強い風が横から当たると突き当たって上向きの風になります。種子は噴水のように吹き上がります。そして、風に乗って旅立ちます。

花が横向きに咲いて、果実が上向きになって、開いてもこぼれ落ちないように櫛の歯状のものがある。そして、強い風の日の到来を待つ。オオウバユリの巧みな生き残り戦術です。

オオウバユリは1回繁殖型の生活史

春、発芽して、花を咲かせ種子を作り一生を終える一年草の草花は「1回繁殖型」の生活史を持ちます。

ところが、宿根草のオオウバユリも「1回繁殖型」です。発芽してから10年前後の年月をかけて花を咲かせ種子を実らせて、その生涯を閉じます。根に貯めた養分も全部使い果たしてしまいます。

オオウバユリの娘鱗茎

右の写真は、2012年11月10日撮影です。強い台風で草木が沢山倒れました。オオウバユリも根こそぎ倒れているものがものありました。その倒れた根に娘鱗茎を見ることが出来ました。オオウバユリは種子を作って命を引き継ぐほかに、娘鱗茎を作って子孫へと命を引き継いでいます。

オオウバユリの娘鱗茎



観察会案内

- 9月9日(土) 秋の花でにぎわう森を歩こう 集合9:50 10:00~11:30 自然ふれあい交流館集合
- 10月5日(木) 秋のありがとう観察会 集合9:50 10:00~11:30 自然ふれあい交流館集合
- 10月15日(日) 晩秋の森観察会 10:00~12:00 野幌森林公園大沢口(駐車場)集合

参考とした文献等 ○「おもしろい草花の話」(北海道林業改良普及協会)、○『植物生活史図鑑』(北海道大学出版会)、
○[手稲アウトドア・クラブ] 代表: 皆川國男氏のメール配信による自然情報

(文責: 春日 順雄)